

■平成29年度 長岡大学地域連携ブックレット No.1

第5回 悠久山・東山フォーラム

「悠久山の見どころ、撮りどころ」

— “お山” あんなとこ、こんなとこ —



目次

- | | | |
|---|---------------------------------------------------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 第5回悠久山・東山フォーラム次第 | 3 |
| 3 | 「悠久山いいとこ撮りまっぷ」お披露目
長岡大学写真部学生 | 5 |
| 4 | 講演「牧野家と悠久山」
旧長岡藩主牧野家第17代当主 牧野忠昌氏 | 9 |
| 5 | 対談「令終会と悠久山」
公益財団法人平成令終会・雪国植物園園長 大原久治氏
長岡大学教授 松本和明 | 19 |
| 6 | 参考資料 第5回悠久山・東山フォーラムアンケート集計結果 | |

長岡大学ブックレット刊行にあたって

平成 30 年 3 月

長岡大学長 村山 光博



長岡大学は、建学の精神に「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」を掲げ、「地域社会の発展に貢献する大学」を目指しております。

また、本学はこれまで大学改革にも積極的に取り組んで来ており、平成 18(2006)年度以降は、文部科学省の大学改革補助事業に選定された次のプログラムの中で、改革を推進して参りました。

- ・平成 18～20 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）
「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」
- ・平成 19～21 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）
「学生による地域活性化提案プログラム」
- ・平成 19～21 年度 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
「長岡地域産業活性化のためのMOT教育『イノベーション人材養成プログラム』」
- ・平成 21～23 年度 大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム
「学生の3つの就職力一体形成支援プログラム」

また、平成 25(2013)年度には、本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC (Center Of Community) 事業」(平成 25～29 年度)に採択されました。大学COC 事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在(課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点)となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。同年度の採択率は全国の大学等総申請数ベースで 17.6% (採択 51 件／総申請数 289 件)、私立大学ベースで 8.3% (15 件／180 件)と非常に低い状況であり、新潟県内では本学が唯一の採択大学でした。採択後、本学では全学的な事業推進体制を形成し、PDC Aサイクルの下で事業を推進して参りました。また、平成 28(2016)年度からは、政府の地方創生事業の一環である文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成 28～31 年度)にも参加大学として加わっています。

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、長岡市(平成 25 年度から)および新潟市・新潟県(平成 28 年度から)との連携の下、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、3つの地域課題(産業活性化、社会課題解決、地域・コミュニティ活性化)に応えようとするものです。

本ブックレットでは、「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の各事業の中から、とくにその成果を地域社会へ還元すべきものを取り上げて、広く発信いたします。

長岡大学は、これからも「地域社会の発展に貢献する大学」を目指して全学を挙げて取り組んで参りますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

★＜創造人材(Creative Talents)＞とは、一般には専門的職業従事者(科学者等)を指しますが、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることも明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学が経済経営系の大学であるという性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどがいわゆる＜創造人材＞であると考えております。

-----はじめに-----

第 5 回 悠久山・東山フォーラム 「悠久山の見どころ、撮りどころ」



長岡大学教授 高橋治道

平成 25 年度に本学が、「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されて以来、悠久山・東山地域の人たちをはじめとする市民の人たちと一緒に悠久山・東山地区の活性化を目指した活動に取り組んできました。毎年度の終わりには、一年間の活動の締めくくりとして「悠久山・東山フォーラム」を開催し、活動を通し得られた成果を地域の人たちや市民の人たちと共有してきました。

回を重ねるごとに活動に広まりと深みが増し、フォーラムの発表内容も豊かになってきました。第 1 回は、「みんなで悠久山・東山地区の新たな魅力を語ろう」というテーマで開催し、悠久山・東山地域が長岡市の産業、歴史、憩いの場として重要な位置を占めていることを再認識しました。第 2 回は本学学生と栖吉地域の方々と作成した 3 種類のマップ（「栖吉おもひでマップ」、「悠久山おもひでマップ」、「東山自然体験マップ」）が発表され、環境面でも文化面でも恵まれている悠久山・東山地域を有効活用するには理念をしっかりと持ち、愛情を持った住民が自ら活動し、学生が協力していくことが重要であることが認識されました。第 3 回は「ひとりひとりができること」をテーマに開催し、「地域の方たちがどんな交流をしているか、どのように地域の資源を活かしているか」実践例を紹介していただきました。第 4 回は「お雛さまとお茶会」というテーマで開催し、牧野家 17 代当主牧野忠昌様ご一家にも参加いただいて牧野家のお雛様の話をしていただくなど、お雛様にまつわる多彩な内容で参加の皆さまから大好評を博しました。

COC 事業の最終年度に当たる本年度は、平成 30 年が長岡開府 400 年に当たることから記念行事に焦点を当て、地域の古屋様、桑原様のご指導を仰ぎながら、本学学生の写真部による「悠久山いいとこ撮りマップ」の作成を 1 年間かけて行いました。

これを踏まえて本年度のフォーラムは『「悠久山の見どころ、撮りどころ」－“お山” あんなどこ、こんなとこー』をテーマにして開催し、「悠久山いいとこ撮りマップ」のお披露目、旧長岡藩牧野家第 17 代当主牧野忠昌氏による講演「牧野家と悠久山」、公益社団法人平成令終会 雪国植物園園長 大原久治氏と本学教授松本和明による対談「令終会と悠久山」を行い、悠久山に関する新たな発見や知見を語っていただきました。参加いただいた 120 名を超える皆様からは、「近年悠久山が置き去りにされているように思え、市に対し、もっとアピールし守っていくべきと考えていました。悠久山の中に位置する長岡大学には、長岡の大切な遺産でありシンボルでもある悠久山を守る取組、発信を期待します」等、悠久山・東山地区の活動に期待する声が多数寄せられ、実り多いフォーラムとなりました。

「地（知）の拠点整備事業（COC）」は今年度で終わりますが、来年度以降も、「悠久山・東山地区を初めとする地域の活性化に向けた取り組みを引続き行ってゆく予定であります。

第5回 悠久山・東山フォーラム

「悠久山の見どころ、撮りどころ」— “お山” あんなとこ、こんなとこ—

2018年2月24日(土) 13:30~16:00

: 地域交流ホール
学生食堂

次 第

	進行	長岡大学事務局長	品川 十英
13:30	開会のごあいさつ	長岡大学学長	村山 光博
13:35	「悠久山いいとこ撮りまっぷ」お披露目	長岡大学写真部学生 悠久山いいとこ撮りまっぷ制作委員会	
	聞き手	長岡大学教授	米山 宗久
	写真部学生: 3年:	矢島洋輔、安達清志、高橋広守、菅野拓巳 新保 聡、海津 聡、渡邊京介、新保敦弘	
	まっぷ制作委員	古屋信司 氏、桑原幸子 氏	
		長岡大学地域連携研究センター地域連携部会 部会長	高橋 治道
	14:15~14:20	休 憩.....
14:20	講 演	「牧野家と悠久山」	旧長岡藩主牧野家第17代当主 牧野 忠昌 氏
	15:05~15:15	休 憩.....
15:15	対 談	「令終会と悠久山」	公益社団法人平成令終会 雪国植物園園長
		長岡大学教授	大原 久治 氏 松本 和明
16:00	閉会のごあいさつ	長岡大学教授	高橋 治道

長岡大学では、平成25年度より悠久山・東山フォーラムを開催しております。今年度は、長岡大学写真部の学生が地元の方々のご協力で作成した「悠久山いいところ撮りマップ」のお披露目、牧野家17代当主牧野忠昌氏のご講演、公益社団法人平成令終会雪国植物園園長 大原久治氏と本学教授 松本和明による対談を企画いたしました。

ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として行うものです。

平成30年 **2/24** 土

13:30～16:00

会場：長岡大学地域交流ホール

定員：60名(先着順)

申込締切 2月22日(木)

参加
無料

当日参加も歓迎です。



【悠久山いいところ撮りマップ】お披露目…… 13:30～14:15

長岡大学写真部、マップ制作委員会
 聞き手 長岡大学教授 米山 宗久

【講演】「牧野家と悠久山」…… 14:15～15:00

牧野家17代当主 牧野 忠昌氏

【対談】「令終会と悠久山」…… 15:15～16:00

公益社団法人平成令終会 雪国植物園園長 大原 久治氏
 長岡大学教授 松本 和明

◆当日は、長岡大学写真部による写真展示も行います。

■主催 長岡大学地域連携研究センター

■共催 長岡市、長岡商工会議所、公益社団法人平成令終会

お申込方法・お問合せ先

お電話、FAX、メールでお申込みください。FAXの場合はこのチラシの下欄に記入し、下記FAX番号に送信してください。

(お問合せ・お申込先)

長岡大学地域連携研究センター 担当 山田、小田原

〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL:0258-39-1600(代) e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

FAX:0258-39-9566

氏名			
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

「悠久山の見どころ、撮りどころ」
 おもいあんなマップ、みんなのマップ

第5回 悠久山・東山フォーラム



「悠久山いいとこ撮りまっぷ」お披露目

長岡大学写真部学生が、地域の方のご協力で作成した「悠久山いいとこ撮りまっぷ（景観編・石碑編）」をお披露目しました。次ページに、それぞれの縮小版を掲載しました。



本学米山教授のリードで、苦労話や写真に隠された秘密、あまり知られていなかった悠久山の「お山」あんなとこ、こんなとこ」などが明らかになり、会場の笑いや驚きを誘っていました。



まっぷ制作委員の古屋信司氏、桑原幸子氏には、写真部の活動についての感想などを述べていただきました。地域交流ホールでは、まっぷに使用した写真、載せきれなかった写真を展示しました。



古屋 信司氏

桑原 幸子氏



写 真 展

※まっぷをご希望の方は、長岡大学地域連携研究センターまでご連絡ください。

悠久山いいところ撮りまっふ (石碑編：縮小版)

悠久山 いいところ撮り まっふ

平成30年2月

長岡大学 平成30年度 地域文化研究センター
長岡大学 地域文化研究センター
長岡大学 地域文化研究センター

悠久山いいところ撮りまっふ制作委員会
長岡大学 地域文化研究センター
長岡大学 地域文化研究センター

戊辰戦争

牧野家



1 阿保湾之陣 (あひのづのすゐ) の碑
【1857-1860】
戊辰戦争の上巻、宇津川藩、豊後守高直、長門守景隆に、敵軍討滅を記す。自ら討死した高直の功を記す。



2 長岡藩陣中慰霊土曜陣
【1857-1860】
長岡藩陣中慰霊土曜陣の石碑。陣中慰霊の意を記す。



3 長岡藩陣中慰霊土曜陣
【1857-1860】
長岡藩陣中慰霊土曜陣の石碑。陣中慰霊の意を記す。



4 牧野家(まきの家)の墓
【1669-1722】
長岡藩の家臣であった牧野主税の墓。長岡藩の歴史を記す。



5 山崎守(やまざきまもる)の碑
【1860-1864】
山崎守の功績を記す。長岡藩の歴史を記す。



6 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



7 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



8 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



9 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



10 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



11 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



12 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



13 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



14 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



15 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



16 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



17 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



18 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



19 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



20 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



21 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



22 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



23 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。



24 長岡藩(ながおか)の碑
【1860-1864】
長岡藩の歴史を記す。長岡藩の歴史を記す。

探しに行こう!!
見に行こう!!
悠久山の「いいところ」



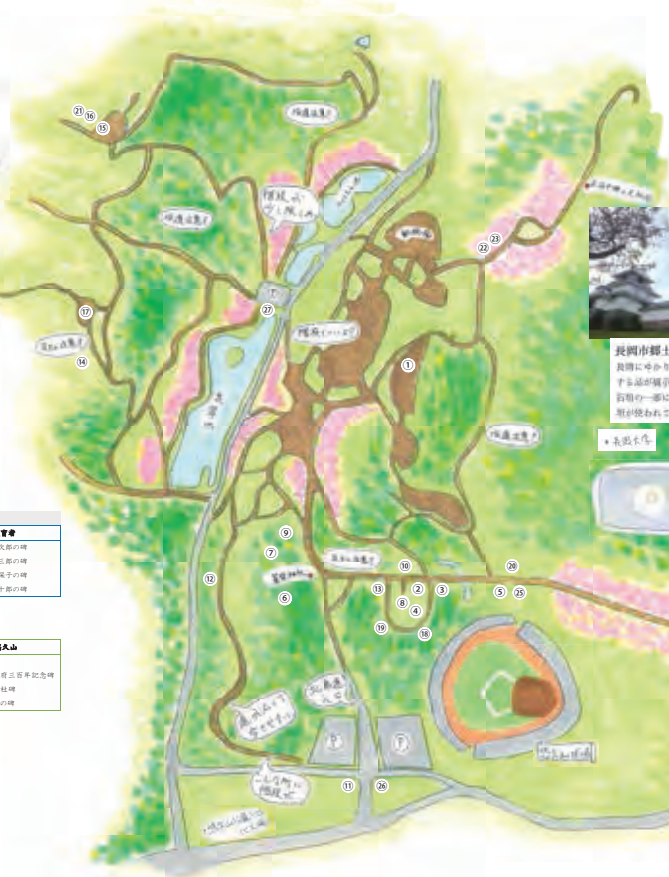
資梁神社 (あらいじんじゃ)
長岡藩の幕府を築いた藩主代藩主佐野忠雄(まきのただひさ)を奉祀する神社。
【1771】年、幕府の御用金にあり、次男の身分が落ちたのをきっかけに、以前から、神宮を境内に置くことは好ましくないと考え、藩主代より代藩主佐野(たけふま)により、文相の地に移された。

石碑一覧		
戊辰戦争	教育者	文学
1. 阿保湾之陣の碑	7. 教育者の墓	24. 柳文庫
2. 代長藩陣中慰霊土曜陣	8. 一柳神社	25. 長岡藩三百周年記念碑
3. 代長藩陣中慰霊土曜陣	9. 田長岡藩主牧野宗常	26. 悠久神社
4. 山本藩の碑	10. 悠久山神社	27. 全長岡の碑
5. 長岡藩の碑	11. 自然の碑	
6. 長岡藩		
12. 三浦正一の碑	20. 井上井月句碑	
13. 代長藩陣中慰霊土曜陣	21. 小林藩主句碑	
14. 渡辺重吉の碑	22. 松岡漢文句碑	
15. 長岡藩主の碑	23. 堀口大寺漢文句碑	

マップ上の数字は、写真の位置を示しています。



悠久山公園
1916年、山田又三(やまだまたさぶ)が、田村大助(たむらおさけ)を中心に、園芸士と市民が協力して建設された。当時は、園芸の発展を期して建てられた。長岡藩主(ながおか)によって建設された。



↑ 地元の民謡「花嫁の、おんち程で春の六舞り」



長岡市郷土史料館
長岡にゆかりのある人物にゆかりの石碑が展示されている。百景の一部には、長岡藩の石碑が使われている。



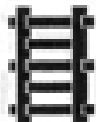
悠久山公園
1916年、山田又三(やまだまたさぶ)が、田村大助(たむらおさけ)を中心に、園芸士と市民が協力して建設された。当時は、園芸の発展を期して建てられた。長岡藩主(ながおか)によって建設された。

・ ・ ・ 講 演 ・ ・ ・

「牧野家と悠久山」



長岡藩牧野家家紋
三ツ柏



長岡藩藩旗
五間梯子



旧長岡藩主牧野家第17代当主
牧野 忠昌氏

目 次

- 1 牧野家
- 2 悠久山とは
蒼柴神社第一の鳥居 9代忠精奉獻、縣社蒼柴神社 16代徳川家達揮毫
- 3 蒼柴神社
- 4 悠久山の命名
博厚配地 高名配天 悠久無疆
- 5 長岡開府300年と令終会
- 6 一般社団法人 霞会館 記章は桜
- 7 牧野家霊廟、般若心経160巻
- 8 三代忠辰公、蒼柴大明神
- 9 招魂社祭、柏の木
- 10 悠久山房
- 11 白犬のはなし
- 12 長岡藩開府400年
長岡開府400年PR誌 ROOTS400 Vol.1~7発行
長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展開催中

1 牧野家

みなさまこんにちは、ただいまご紹介いただきました、牧野忠昌でございます。ちょっとこのタイトル、本当は「牧野家と悠久山」としたかったのですが、少し訂正が遅れました。では、座って失礼します。

本年、平成30年は、長岡開府400年です。私たちが現在生活している長岡のまちは、江戸時代のはじめ、元和4年(1618)に長岡藩をひらいた牧野忠成公によっておおきく整備されたところで、かつて長岡城がありました。長岡は、長岡城を中心とした城下町でした。いまはもちろん姿を見ることはできませんが、いまのJR長岡駅に殿様が仕事をしていた長岡城の本丸があり、アオーレ長岡の市役所の場所には、長岡城のなかで2番目に大事な場所であった二の丸がございました。

江戸時代には、全国に300以上の大名家がございました。多くの殿様は、幕府の命令に

よって日本中をいろいろ領地替えさせられるものでしたが、江戸時代の 250 年間、牧野家はずっとこの長岡を治め、他の土地に移ることはありませんでした。江戸時代、同じ土地でずっと同じ家の殿様がつづいたのは全国でも珍しいことではないかと思います。

1618 年、長岡城の最初の殿様を初代と呼び、初代牧野忠成から数えて私で 17 代目になります。徳川幕府二代将軍の徳川秀忠公からいただいた「忠」を歴代の長岡藩主は名前の一字として使わせていただいております。

2 悠久山とは

前置きはこれくらいにいたしまして、悠久山の話にはいります。

悠久山は、むかし、三官山と呼ばれていました。長岡城から東の方向に 4 キロメートル、標高は約 100 メートル。東山連峰の西のふもとにある独立した小さな丘です。一般には蒼柴神社の神域を中心とした悠久山公園の「お山」とか、「前山」とか「蒼柴のもり」と呼んで、四季折々の長岡市民の憩いの場として親しまれております。かつては長岡駅と悠久山の間 2.8 キロメートルには、電車が走っていた時代もあります。

私は昭和 36 年、はじめてこの長岡を訪れたときには、この電車に乗車して長岡から悠久山まで来たことがあります。いま、この悠久山マップ、少し古いのですが、いまここに長岡大学がございます。そしてここに郷土史料館があります。残念ながらこの郷土史料館のお城、城のような形をしているので長岡城と間違えられるのが私は非常に残念でございませぬ。そしてこちらにお猿がいる小動物園がございます。ここは真ん中の広場、花見の時期にはたくさんの方がおいでになりますし、また両方の池がございます。ここにはウシガエルという外来種の種類がはびこっておりまして、本来は駆除しなければならない生物です。ここにいた生物がこのウシガエルに食い荒らされて、本来の生態系が破壊されつつあります。それからあと、今日お話しするところが悠久山や蒼柴神社の境内の一角です。このパーキングになっておりますところは、むかし、悠久山房があったところでした。そしてその後ろにしろちゃんの碑がございます。おやま全体にいろいろな石碑があります。本来蒼柴神社に参りますにはまずこの表参道から入りまして、この L 字型に歩いていくのが本来の蒼柴神社にお参りするメインのコースでございませぬ。最近はこちらの方に駐車場があるので、ずっと近いところを通ります。私もときどき通りますけれども、本来はこういう通り方をすると蒼柴神社の御利益がなくなるということも考えられます。この参道の脇には、たくさんのお碑や灯籠その他がございませぬ。それは少し牧野との関係をあわせながらお話しさせていただきます。

3 蒼柴神社

長岡市の旧長岡市歌のはじめに「蒼柴の森の緑濃く」とありますが、これは蒼柴神社を中心とした悠久山公園を謳っております。現在は「笑顔いきいき」という題です。今日、この市歌をおつくりになった方も会場にいらしていただいております。

悠久山には石像物、奉納物などたくさんあります。今回は一つずつはご紹介はできませんけれども、水沢梅市という方が平成 2 年から 3 年にかけて調査をしてまとめられた著書、「悠久山のいしづみのスケッチ集」には、123 体を調査されたことが記載されております。

こつこつと悠久山蒼柴神社境内を調査され、それぞれスケッチをし、寸法をとり、130 ページにまとめられております。そのなかの写真をいくつか使いたいと思います。

蒼柴神社の第一の鳥居。これは表参道の入り口にございまして、9代忠精公が奉納されております。年代を申しますと、寛政12年(1800)のことでございます。

次にまいります。県社蒼柴神社の石碑でございます。これは第16代徳川家達公が揮毫されたものでございまして、蒼柴神社が県社に昇格した昭和10年6月に建立されたものでございます。後ほどお話いたしますが、招魂社、悠久山房のあったところ、白犬の碑など、先ほど地図で見ていただきましたが、悠久山公園にもこの他にも郷土長岡が生んだ偉人の碑や史跡、記念碑が多く建立されております。後世に偉業を伝えたいという方々の心が伝わってまいります。

悠久山の10の名勝というのが、以前ございました。いまでもその場所が残っておりますけれども、既に無くなっているところ、悠久山のスキー場とか悠久山線、それから悠久山の薪能——最近はあまり開催されません。相撲場はありますが、本当の相撲場ではなくて子供達の相撲があつたりして、それなりに10勝が残っております。

4 悠久山の命名

蒼柴大明神について、ちょっとお話いたします。蒼柴神社には、事代主命と長岡3代藩主牧野忠辰公が祀られております。3代忠辰公の時代には、領民が安心して生活できるように新田を開発し、米の増収を図ったり、植林をする等おおくの事業を行いました。植林は山林だけではなく、藩士の屋敷内にも松や杉、櫟、桐などの植樹を進めておりましたし、また屋敷内には実際にいただけるもの——栗とか柿とか、いろいろなものを植えていたそうです。特に三官山には杉の苗を1000本植えたそうです。当時、山林の伐採を勝手にすることは禁止されておりましたし、許可無く伐採しますと首が飛んだそうです。いかに山林を大切にしていたかということが分かります。現在では蒼柴の森には大きな杉の木を見ることができず、その周辺部にも大きな松の木が現在もそびえております。

この神社ははじめ4代藩主牧野忠寿公によって、長岡城の北東の脇に社殿がつくられました。父である3代忠辰公は存命中より吉田神道に帰依しておりましたし、忠寿が亡き父のために京都の吉田家から蒼柴霊神の神号をいただきました。吉田家とは、現在京都にあります吉田神社のことでございます。

その後、9代忠精公が3代忠辰公の50回忌を催して、蒼柴大明神の号をいただいたことを記念し、明和6年(1769)から13年間かけてこの土地に日光東照宮と同じ権現造りの神社を建て、天明元年に完成したのがいまの蒼柴神社でございます。この土地が悠久山と名付けられたのもこのときでございます。9代忠精公も3代様と同じく植林に励まれ、杉や松、桜を植樹し、3代様をお祭りする神域にふさわしい清浄な地と定められたのでございます。

年々、神社の境内は整備され、幕末には桜の名勝地となりました。9代様が名付けられた「悠久山」の名は、四書五経のひとつ、「中庸」26章から引用されております。いま出ております「博厚配地 高明配天 悠久無疆(博厚は地に配し、高明は天に配し、悠久は疆

りなし。)」と書かれております。これを解説するととても時間がございませぬし、私もそういう能力はございませぬけれども、少し柔らかく申しますと、博厚は物を載する所以なり、高明は物を覆う所以なり、悠久は物を成す所以なり、という解釈ができそうです。そして、これ聖人と天地と体を同じくすることを言う、というような意味合いだそうです。今も変わらず悠久山と呼ばれております。

5 長岡開府 300 年と令終会

次に、令終会について少しお話いたします。長岡藩がはじまってからちょうど 300 年にあたる大正 6 年（1917）、長岡市は、本年と同様にその記念事業を計画いたしました。これを知った当時の田村文四郎や山田又七という方々が、市内の有力者でつくっていた令終会の人々と相談して、多くの人をつのり、長岡開府 300 年記念事業として自然公園をつくって長岡市に寄贈することになりました。

令終会の「令終」とは、ものごとの終わり方を立派にする、また立派な死に方をするという意味で、令終会とは、政財界で活躍し、還暦を過ぎた有志達が集まって結成した会です。令終会は、悠久山と悠久山街道の建設を計画しました。そして、計画は造園家の長岡安平氏に依頼いたしました。長岡市と長岡安平は同じ字で同じ苗字がつかわれていますが、何かの縁かもしれません。

最初は 5 万坪あまりの土地を購入しまして、寄付地とあわせて 8 万坪の公園計画としたわけでございます。この土地のうち、21,076 坪は私の祖父、牧野忠篤が寄附したと記録に残っております。また、開府 300 年に先駆けて、明治 38 年には、忠篤は 1,000 本の桜を寄附し、そして「お山の千本桜」と広く親しまれ、今日に至っております。

令終会の建設計画で、長岡高校前から栖吉川を通過して悠久山に通じる 2,250 メートルの悠久山街道がつくられました。現在も栖吉川にかかる令終会の橋のもとにこのように記念碑が残っております。今は車で通過されるので、なかなか目に留まらないかもしれませんが、一度見ていただければ良いと思います。

本来、これは江戸時代はこの道は無かったわけですから、江戸時代藩主が蒼柴神社に参拝するのに使われたのは、この道のもっと南側に位置するところを参拝の道として使っておりまして、いま現在も道路が残り、一般に使用されております。

この長岡開府 300 年記念の総裁は祖父、牧野忠篤が担当いたしました。会長は河島良温という 2 代目長岡市長が務めました。この開府 300 年の記念品を皆様に配らなければならないということで、忠篤は、この記念品の扇をつくって、市に寄贈いたしました。大小二つの記念の扇でございまして、今日実物をもってまいりました。これが（開府）300 年前に記念品として配られた扇でございます。兜の真ん中に三つ柏の家紋がございまして、この絵はその当時たいへん有名な日本画家が描いたものです。これは長さにして 27 センチくらいでございますが、この映像では大小がわかりませんが、この半分くらいの小さいのもありまして、大小合わせて記念品としたようでございます。

6 一般社団法人霞会館 記章は桜

私の先祖は、悠久山に多くの桜を植樹し、大変な愛着をお持ちでしたが、私も微力ながら桜の植樹に協力しております。私が会員となっている一般社団法人霞会館は、その昔の公家、大名、明治の元勳等の子孫で組織している団体でございまして、東京都千代田区霞が関の霞が関ビルの34階に事務所がございます。この会の事業の一つとして、全国各地に桜の魅力を生かした生活環境をつくるために、霞会館会員の関係先の市町村とか、神社、仏閣、学校、公園、福祉施設等に桜の苗木を寄贈し、緑化運動の一助となるように努めております。なぜ桜なのかと申しますと、会の記章が桜だからであります。

悠久山公園にも、桜の苗木を寄贈させていただきましたが、今後も開府400年記念事業として、ロータリークラブが植樹を予定なさっておりますので、私もそのおりに、霞会館から寄贈する予定にしております。

7 牧野家霊廟、般若心経160巻

江戸時代、牧野家の江戸の菩提寺は現在の東京都港区にある浄土宗周光山濟海寺でございました。昭和57年、濟海寺から長岡の東神田にある牧野家の菩提寺栄涼寺に墓所を改葬移転のため、墓所の発掘学術調査を行いました。東京の濟海寺は、長岡藩主初代忠成公によって建立された大名寺でございます。長岡の栄涼寺に墓石すべてを移すには少し狭かったため、歴代藩主と正室のお骨は栄涼寺に新しく建立したお墓に納め、墓石のみ蒼柴神社本殿南側の場所に移転いたしました。それがこのところでございます。先ほどの学生さんのマップにも載っております。

石碑は、2代藩主忠成公から11代忠恭公まで、そして15代忠篤と歴代の正室、全部で17基がございます。移転した際に家族が写経した般若心経160巻をこの基礎に埋めました。納めたわけでございます。いままで、墓石の下にはちゃんとしたお骨が入っていたわけでございますけれども、それが無くなったので、墓石だけでは、何か石だけが建っているのではないかということで、家族で相談して般若心経を納めたのでございます。

8 三代忠辰公、蒼柴大明神

次に、3代忠辰公のお墓についてお話しします。先ほど、蒼柴大明神として祀られているとお話申し上げましたが、3代忠辰公は、寛文5年(1665)、江戸藩邸で生まれ、享保7年(1722)、58歳で亡くなっております。江戸で亡くなり、池上本門寺に埋葬されました。これは昔でいいますと、武蔵国荏原郡池上村、現在では大田区の日蓮宗大本山でございませぬ。

昭和60年に大田区の郷土史家の方から牧野家のお墓がぞんざいに扱われているという知らせをいただき、急ぎ確認に参りましたら、この3代様の墓石が、これが無残にも横向きに倒された墓石が、忠辰公のお墓だということがわかりました。本門寺の担当者にかかっても、何故そうなったのかわからず、急いで蒼柴神社本殿の東側に移すことができました。本来ならば、遺骨や副葬品などがあつたはずですが、墓石のみだったので、これも同じく般若心経100巻を家族で書いて納めまして、272年ぶりに池上本門寺から長岡に無事

里帰りされたのでございます。これは3代様のご木像で、このような厨子に入っている感じがします。ちょっとお顔を、本当はもうちょっと大きくなれば良いのですが、お顔の右の目が失明されておられまして、伊達様と同じく片眼で、色々ご苦労されたことだと思っております。

9 招魂社祭、柏の木

次に、招魂社についてお話いたします。蒼柴神社拝殿の左手奥に、明治7年に建てられた招魂社があります。いまこれは招魂社祭の際の写真でございますが、これが招魂社で、こちらに墓石が並んでおります。左右両方に墓石が並んでおります。そしてこの奥の右側も、ひとかたまり墓石が並んでおります。それからこれが招魂社のお祓いの模様で、私が玉串奉奠しているところでございます。

毎年5月の第3日曜日に長岡藩士の末裔たちの会、拍友会主催で招魂社祭が行われております。北越戊辰戦争で長岡城が落城し、5月19日に戦没者を慰霊すべく行われるもので、19日に近い日曜日に実施されております。招魂社には、軍事総督河合継之助、大隊長の山本帯刀以下、藩士309名の御霊が祀られております。招魂社の前面左右には、42基の墓標が並べられ、これがそうでございます。

この一基の表と裏には8名の名前が刻まれております。また、招魂社の右奥には、西南戦争で亡くなられた小隊長池田九十郎をはじめ、18名の霊を弔う墓石が並んでおり、この二つの戦いで亡くなられた方を招魂しているわけでございます。

招魂社のそばにあった牧野家の家紋である柏の木が近年枯れましたので、平成23年、豊川市の熊野神社にある柏の種、どんぐりから発芽した苗木をいただき、同じ場所に植樹いたしました。この熊野神社の柏は、9代忠精公がお手植えになった柏の木で、ゆかりの深い種をいただいたことを、大変うれしく思っております。種を採取した柏の木は、大変老木であり、なかなか発芽させるのにご苦労がありましたけれども、3年目にやっと3本が苗木として育ったことで、豊川の方のご協力に心より感謝しております。そして、これは昨年写真でございますが、私の背を越して、立派に大きくなっております。

10 悠久山房

次に、悠久山房についてお話いたします。

大正8年(1919)、悠久山公園が建設されたときに、北参道の東側、現在の駐車場でございますが、そこに池がつくられ、その近くのかやぶきの家が長岡市呉服町に在住の下田藤七氏によって令終会に寄贈され、それを悠久山房と命名し牧野家が別荘として使わせていただいております。いま写真に出ておりますが、のどかな田園風景に溶け込んだお茶室風の風情のある建物は忠篤公も大変お気に入りになり、悠久山においでになった来賓の方々をお招きして、休息していただいたり、お茶をたてたり、また頼まれた書をしたためたり、好きな尺八を楽しんでいたようでございます。

写真は悠久山房の遠望でございます。山房の正面には水田が広がり、その先には長岡のまちが遠望できたと思います。山房の前の庭や池を散策したようでございます。

祖父の忠篤は、東京に自宅がございましたが、自ら名付けた悠久山房を気に入り、長岡に帰ったとき、蒼柴神社参拝の折には必ず立ち寄っておりました。囲炉裏の前にくつろぐ忠篤公でございます。何かゆっくりなさっている姿が見て取れます。

この山房には、書画帖が備えられておりまして、来遊の方々には何らかの感激の詩句や記念の筆跡を残してお帰りになったそうです。当時お付き合いのあった近衛文麿公爵、細川侯爵、徳川侯爵など多くの方々がこの悠久山においでになって、蒼柴神社にお参りされたことが記録されております。ときにはお酒の席が設けられ、楽しかったことをお詠みになった歌も残っております。

この悠久山房は残念なことに第二次世界大戦の長岡空襲で焼夷弾が落ちまして全焼いたしました。いまはその面影を見ることはできません。長岡には、日本の伝統様式の一つである数寄屋造や書院造の建物や庭園を配した施設が見当たりません。江戸時代から文化の伝統を色濃く残しているこの長岡にとって、まことに残念なことでございます。奥深い、日本の伝統文化を理解し、日本の精神を取り入れた様々な伝統文化を根付かせるには是非必要なものではないかと思っております。

11 白犬のはなし

さて、今年は戌年でございますので、ひとつ白狗の碑、白狗の塚と申しますが、それをちょっとご紹介いたします。

悠久山蒼柴神社北側の駐車場のそばに、白狗の碑がございます。貞享の時代と申しますから 1684 年から 87 年にかけてのときでございますが、3代忠辰公が藩主だったころ、中沢村の名主善兵衛さんは白い大きな犬を飼っておりました。名前をシロと呼んで、大変かわいがっておりました。ある雪の夜、腹をすかせたオオカミが、東山から里に出てまいりました。シロはこのオオカミと戦い、かみ殺してしまいました。噂は村中に広がり、また殿様の耳にも入りました。そして、春になると、シロは殿様のお望みで、お城の中で飼われることになりました。その年の夏、殿様は江戸にもどり、留守の間、家来が預かっておりましたが、毎日しょんぼりとしておりました。それから 4、5 日経ったある日、江戸のお屋敷の門前に一匹の犬が現れておりました。それは、長岡で殿様がかわいがっていたシロでした。殿様はたいへん喜び、江戸屋敷で飼われることになりました。

ある日のこと、尾張の国の殿様、徳川御三家ですが、ご自慢の犬が家来に連れられ、長岡藩のお屋敷の前を通りがかりました。シロはしきりに吠えましたので、門番はあわてて押さえました。尾張の家来は、この自分の連れている犬は、外国から連れて来た強い犬だと申しまして、白い犬などには負けないと威張っていました。ところが突然シロは、門番たちの手をはねのけて、その犬にとびかかり、あっという間に相手の犬をどぶに跳ね飛ばしてしまったのでございます。

この事件は、殿様の耳に入り、シロはたいへん叱られました。御三家の犬をこのようにいじめてしまったわけです。シロは、悲しそうに首を垂れて、じっと殿様の話を聞いておりました。

次の朝、どこを探してもシロの姿は見えません。もしかしたら長岡に戻ったのかもしれ

ないと、使いの者をいそぎ長岡に出発させました。シロは善兵衛さんの家に戻っていましたが、善兵衛さんは殿様のお許しが無い限り家に置くことはできないのだよ、とシロに言って聞かせたので、シロは善兵衛さんの家を出ていきました。

その後、中沢村から少し離れたところからさみしそうな犬の鳴き声が聞こえてくるようになりましたが、数日たって、鳴き声は聞こえなくなりました。江戸からお使いの者が長岡に到着し、シロが戻っていたらいたわるようにとの殿様のお言葉を伝えたのでした。しかし、家来たちがどこを探してもシロは見当たらず、シロは、小高い丘の上で善兵衛さんの家の方を向いて、息絶えていたのでございます。皆は、小高い丘の上にシロを手厚く葬ってやった、というのがお話でございます。それ以来、牧野家では犬を飼うことを謹んで、現在もずっと犬の飼育はしていません。

12 長岡藩開府 400 年

これで悠久山のお話は終わりますが、少し、開府 400 年についてご紹介させていただきます。

これは現在皆さまもよくご覧になる開府 400 年のロゴマークでございます。また今年も戊辰 150 年の年でもあります。一昨年より、長岡開府 400 年の PR 雑誌、「ROOTS400」、1 号から 7 号まで出ております。今日ちょっとお持ちしたので後ほどお見せしますが、これは長岡市のいろいろな市の関係施設で無料で配布しておりますので、どうぞご覧いただき、お読みいただきたいと思っております。

長岡開府記念の現在の催しといたしましては、第 11 回「越後長岡ひなものがたり」が開催されております。2 月 15 日から 3 月 7 日まで、大手通りを中心として、各店舗でお雛様が飾られております。すでにご覧になった方がいらっしゃると思っております。また、3 月 4 日には、古式ゆかしき束帯と十二単の着装披露をアオーレ長岡の市民交流ホール A で行います。また、現在さいわいプラザ 3 階の中央ホールでは長岡藩主牧野家ゆかりのお雛様を 3 月 7 日まで開催しております。この写真を持ってまいりました。これがメインのひな壇 8 段飾りで、左右に小さな段を配して飾っております。昭和 47 年 3 月に京都の府立総合資料館に牧野家のすべてのお雛様を展示して以来、46 年ぶりに我が家のお雛様の全部を展示しております。今後すべて飾ることはなかなか難しいのですが、この機会にぜひご覧いただきたいと思っております。

5 月 27 日の開府 400 年の記念式典がございますが、その後アオーレで蹴鞠の実演も計画しております。またさいわいプラザで牧野家至宝展も計画しておりますし、牧野家のお宝初公開の刀剣や、未公開の資料や殿様の顔の複顔模型等も展示していきたいと思っております。

また 9 月から 11 月にかけて、新潟県立歴史博物館で徳川将軍と越後大名家のお宝を展示する予定になっております。開府 300 年の折に悠久山公園が整備され、いま立派に活用されているように、100 年後の開府 500 年にむけて、400 年のときには立派な記念事業が成功してすばらしかったと言われるようになりたいと願っております。「次の百年へ 新しい米百俵」の標語通り皆様にもご協力いただき、盛大な開府 400 年をお祝いしたいと考えて

おります。

いま、先ほど申しました ROOTS400（下記参照）、これが一番新しいものでございます。無料で差し上げるというか、市の施設においてありますので是非ご覧ください。このバックナンバーも現在増刷してそろえております。

一応これで私のお話を終わらせていただきます。ご清聴いただきまして、まことにありがとうございます。



※長岡開府 400 年 PR 冊子「越後長岡 ROOTS400」

長岡の文化や伝統、精神性のルーツを長岡藩の歴史から紐解き、長岡が培ってきた「常在戦場」などの精神を全国に広めます。



・ ・ ・ 対 談 ・ ・ ・



公益財団法人平成令終会・
雪国植物園園長 大原久治 氏

「令終会と悠久山」



長岡大学教授
松本和明

松本

皆さんこんにちは。どうしても4時でやめろと指令が来ておりますので、大原園長、よろしくお願ひします。

まずは、「令終会と悠久山」というお題であるので、大原さんの子どもの頃、長岡生まれ長岡の育ちであるので、その頃の悠久山の思い出からお話し願ひえますか。

大原

全く打ち合わせがないので、彼から振られた通り答えますという約束事で来ておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

先ほど「おやまさま」というのがありましたが、私も悠久山を「おやま」といつも呼んでいました。おやまに行くよ、というのが、それが当たり前だった。長岡人の心の中には、悠久山という固い名前よりも、「おやま」なのです。そうですね、私は小学校に入っていないんです。戦争中でしたから小学校は「国民学校」と呼ばれていました。新町国民学校にいて、遠足といえばこちらへ来るのです。トツテツはもちろんありましたよ。その後、戦後焼け出されまして、私は柏崎へ移ったのです。そして3年後長岡の東坂之上町に戻ってきました。その東坂之上町は、蒼柴神社の氏子なのです。だから私は結婚式をこの神社でやったのです。おそらく城下町ですから、大手通り周辺はこちらの氏子です。何かというところにご縁がありましてね、スキーを覚えたのもこの山です。昔のスキー場のリフトに乗って、後の山までいったりした覚えがあります。

長岡高校のときには、マラソンもこの前を通るのです。少年学園の前を通過して乙吉を回って、川崎へ出て帰ってくるという、マラソンは3年間走らされた覚えがあるのですが、いずれにしても悠久山というのはいろいろな思い出がたくさんあります。見合いをしたのもあの小松パーラーだったかな。

実は私は昭和36年に長岡青年会議所という団体に入りました。青年会議所の入会目的はどうかと申しますと、ほとんどの人が自己トレーニングのためです。少し大人になって、お勉強しようというきもちで入るのです。そのとき、勉強って一体何だろうと言ったときに、ただ単に本を読んだりするのはどこでもできるわけです。そうではなくて、本当の勉強というのは、まちづくりを考えましょう。街の中に出ましょう。いろいろな人にお会いして、そこでいろいろなお話を聞いて、いろいろ考えてみる。これこ

そが自分自身をトレーニングする一番の勉強じゃなかろうか。これが青年会議所の論理なのです。

私は 26 歳で入会し、37 歳で理事長をやったのですが、実は私の前の理事長さんが、「悠久山」という、先ほどお話に出ました、こういう雑誌をつくったのです。

私は実は悠久山のごことはあまり学んだことがなく詳しいことはわかっておりませんでした。というのは、子どもの時から学校の教育で悠久山のごことなど一つも教えられないのです。悠久山公園は長岡市がつくったとばかり思っていたのです。ところが、本を読んで、びっくりし、感激したのです。悠久山の話についてはいま牧野様からお話があったのですが、公園についての令終会の話。市がつくったとばかり思っていた私にとって、市民がお金を出して次の世代のためにつくっているという、このものの考え方と実行力、どれほどびっくりしたことか。でも私はこれを本を読むまで知らなかった。

私が理事長になった昭和 47 年に何をしたか。私が知らなかったのだから、多分長岡市民はほとんど知らないのではないかと、思ったのです。ですから、新聞 2 面くらいの大きなチラシをつくった。悠久山の歴史だとかいろいろなことを全部はめ込みましてね、悠久山の歴史、こういう歴史で生まれたのだということをつくって、長岡市内全戸配布したのです。長岡青年会議所の予算をほとんどつかった——いやいやそればかりではないのですが、だいたい半分くらい使った。知らしめるというのが一番の事業だろうと思ったからです。

別のパンフをつくって、各学校配った。小学校に行って、悠久山の歴史はこういうものなのだ。あの頃、定時制の西高校だったか、そこへ行っても講演させていただきました。長岡にはこんな素晴らしい歴史があるのだ、こういう考え方で動いた先輩方がいるのだ。私が感激しているのですから、夢中になったのです。

理事長というのは 1 年の任期なのです。一年間ですから、最後に打ち上げとして奈良薬師寺の高田好胤管長さんをお呼びできてホクギンの大ホールで、「こころ」ということでお話をいただいたことがある。それが打ち上げなのですがね。だけど、5 年間は悠久山のごことを青年会議所として考えていきましょうという継続事業に盛り込んで、必ずその次の理事長も、全部の予算ではないけれども、なんぼか予算を入れて悠久山運動をやってきた。私の代ではこの悠久山のごみ拾いをやりましたし、更には、市民参加の企画として長岡の郷土史家の高鳥一男さんとか今泉省三さん、おふた方をお願いして、石碑を廻り、碑文の説明をお聞かせいただいた。そんなことも覚えております。

1 年間の期間のなかではその程度のごことしかできなかったのですが、私の心にはずっと火がついていたのです。令終会、すごい。人生の終わりをまっとうにするという名前にだいたい惚れたのです。ですから私もそのときは 37、8 でしたが、50 になったとき、令終会の人たち——令終会の人たちは 60 歳以上という年齢制限があつて、それを越えた人たちが令終会をつくった。それが先ほどから出ている山田又七さん田村文四郎さんとかいろいろな方々が中心になって、長岡の財界の人たちが全部お金を出してくださいました。約 10 万円、いまのお金にしたら 30 億円くらいではないでしょうか。そのほかに寄付をされた土地なんかもあるものですから、相当なお金がかかった悠久山公園。つくった人が、長岡安平さんという設計家です。ここに長岡安平さんの本がございます。これを読んでみたのですが、

この方は新潟の白山公園をつくった楠本正隆さんという初代新潟県令と同じ郷里のご出身で、多分部下としてついて行って、実際に、県知事さんは忙しいですから白山公園なんか自分でつくってられない。この方が設計してやったのではないか。というのは、この方は日本の有名な公園の設計を40くらいしているのです。新潟県では、たぶん白山公園と加茂山の公園がそうです。それと悠久山公園。全国の40くらいの公園ですが、全部都市公園100選に選ばれるような素晴らしい公園をつくっている。その人に依頼しておつくりになったという歴史がある。

いずれにしても、とにかく感激したのです。その感激が、雪国植物園をつくりたいと。50歳になったとき、俺も60歳に近づいてきた。何かはじめないと、いまからでないと、間に合わない。お金持ちの仲間をつくるなり、短期間にたくさん集められれば良いのですが、私は金はない方だから、大勢の仲間と、時間をかけて、ゆっくりでも良いから、長い時間をかけても良いからつくっていききたい。長岡安平が言っているのは、自然豊かな公園なのです。悠久山にない外国の木、長岡市内にない木は植えてはいけないというのです。本来の植生を大事にする公園にすべき。階段をつくるのも、コンクリートじゃだめだよ。木で枠組みをして、硬い木でもって階段をつくりなさい。石を使う場合は天然石を使え。道路以外の落ち葉を掻いてはいけない。たくさんのルールを作って、このなかで言っているのです。

その思想、つまり安平の言っていることが気に入りましたね。植物園をつくる時の原則にしているのです。雪国植物園には、絶対に新潟県にないものは植えてはいけない。外来種も園芸品種もダメだ。農薬を使ってもダメだ。本来あるべきものだけの世界をつくりあげたい。やはり学んだのが、悠久山公園をつくった長岡安平さんの考え方なのです。それに刺激を受けて、真似ではないですが、ボランティア組織の名前を平成の令終会にしたんです。最初は昭和令終会でやっていた。昭和60年にスタートしたものですから。平成になったので平成令終会と名前を変えたのですが。平成令終会はこれ以上変えられませんからこのままにしようかと思っています。

松本

長岡青年会議所での経験は大きかったことがよくわかりました。この悠久山調査特別委員会がJC内に立ち上がり、『悠久山 自然と文明の記録』が刊行されました。これは本当に古典だと思います。それこそ、実は悠久山のことを一通り一冊をもって調べてわかろうとすると、他には意外とないのです。この時は、横山陽輔さんが理事長でしたね。

大原

横山陽輔さんは私の一つ上で理事長で、井口庄蔵君がこの本を作る委員長で、糸魚川の商工会議所の会頭をしていた高瀬衛君が、彼だけ生き残っていますが、私の一つ下なのですが、彼が副委員長で、この本をまとめ上げたという、そういう中身です。

松本

これはやはり読み継がれていくものであると改めて痛感した次第です。その令終会の精神、志は田村文四郎、山田又七が中心に、当時の企業家、財界人たちが、リードしたとい

うのは重要な歴史であるし、これは長岡のというよりはもっと広くアピールすべきと思いますが、このへんはいかがでしょうか。日本のなかでも非常にまれな例です。

大原

お金持ちが自分の財産だけを考えるのではなくて、次の世代のためにお金は使うべきもので、人生の終わりをまっとうする、そういう生き様をしたいというのが長岡のムードとしてあった。財界を支配していた。教育のせいでしょうね。おそらく長岡藩がもっていたものの考え方、それがずっと伝わって、その年代のそういう人たちの心をつかんでいた。私はそうだと思うのです。ですから、この令終会の思想は、貴重な考え方ですから、これはどこかで具体的に表現する必要があるのではないか、名前を伝えるべきではないか。そう思って私は雪国植物園をつくったときに、その組織の名前を昭和の令終会、平成の令終会とつけることにしたわけです。

松本

令終会の思想と「米百俵」の精神とは、かなり重なる部分があると思います。特に、未来に対して自分たち何ができるかという、未来志向でいくのだ、あとは地域のためですね、世のため人のためというのは重要であると思うのですが、そのへんはいかがでしょうか。

大原

学問を通して伝えるということと、実際にやることを通して伝えるという、教え方にはいくつかあるのだろうと思うのです。私は、令終会の方は実業をやっている、そういう教育の立場ではない方々が、具体的な行動のなかでそういう教えを伝えていった。そういう意味では令終会の思想あるいは行動はものすごく大事なことだ。

長岡に生まれたこと、その街の持っている歴史文化の影響は大きいですね。米百俵のことといい、令終会のことといい。これはものすごく大事なことだと思っています。

松本

本当にその通りであると思います。この米百俵の精神にせよ、令終会の思想、これは今に生きるし、将来に活かしてかしていくべきであると思います。

植物園の話ですが、やはりゼロからまさに孤軍奮闘で、仲間内をまとめていくことも含めてご苦労が多かったかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

大原

私が一番ひっかかったのは、私が理事長になる前年に、日本青年会議所に、出向していきまして、その頃から環境問題が議題にのぼるようになっておりました。イタリアの実業家のベッチェイですか、世界から 100 人くらいの学者を集めて、地球の限界、資源の限界、成長の限界という提言を、発表をしているわけです。有名な。あれから世界中に環境問題が取り上げられる。私は、青年会議所時代に、悠久山という歴史を勉強したと同時に、片方で環境問題にすごく気になっていたのです。それで、長岡安平のものの考え方、長岡の

ものだけで、綺麗だからとよそのものを持ってくるのではなくて、本来あるその自然を大切に、生態系を大事にするという思想が基本的に必要なのではないかと、すでに悠久山は残念ながらそのころその性格から離れてしまったという面があります。都市公園になりすぎた。長岡安平さんの考え方は違うので、新しく東の悠久山に対して西の植物園というかたちで、そこに自然生態系を中心とした、将来長岡の市民に残すべきものを残していきたい、そういう理念をもって大勢の人に呼び掛けたのです。そして、昭和の令終会を作りたい。

私は、3つのボランティアということをやったのですが、金のある人は会員として一日8円、年間会費は3000円、これを出してください。金を出すことによって役に立ってください。知恵を出す人もいます。設計をしたり、あるいは植物のガイドさんをするとか、そういう知恵を出すボランティア。もう一つ、汗をかくボランティア。この人たちが植物園を実際に汗を流しながら造成してきた人たちです。毎年だいたい1万時間くらいボランティアの人たちは動いています。今年は34年目です。34年間そういう人がいる今の雪国植物園ができています。そして大勢の人が寄附をしてくださって、成り立っています。

だから、市民一人が言ってもそう簡単にできるものじゃないんですよ、ですけど、支えてくれる長岡のまちがあったから、長岡だったからできたのではないかと、こんなふうに思っています。

松本

ほかの地域だとできなかったような展開だと思うのですが、できたのは長岡というまちであればこそということでしょうか。

大原

私は長岡のまちにプライドを持っているのです。長岡のまちはすごい、こんな人物がいるよという。『ふるさと長岡のんびりと』というあの本を見ると、皆すごいのです、一人一人が。あれは大感激ですよ。それを知ってほしい、知らせるということも大事な仕事が教育の世界にあるのではないかと。いま小学校ではそういうことを地域の問題として、地域の歴史として教えています。戦前、僕らのときには「鬼畜米英」だとか「撃ちてし止まむ」とか言っていた、そんな時代ですからそんなことは一切なかったのですが、いまは地域のことを一生懸命教えています。それはたいへん良いことです。それと、ただ学校授業ではなくて、地域社会が一緒になってそういう動きをしていくべきだ。それともう一つ、何か一つテーマができてうごきはじめたら、支援する仕組みが伝統的に長岡のまちにはあるような気がするのです、そういう仕掛けもしていく必要があるのではないかと思います。

松本

市内の小学校は、総合学習や地域の学習などを一生懸命やっています。中学はまだ多少つづきます。高校は県立と私立ですから抜けてしまう。大学はもっとダメというのが現状です。その辺は一応大学で飯を食っている者としては非常にこれは反省しなければならないというところがあります。悠久山にある我々としましては専売特許として一生懸命やり

たいと決意を新たにしました。前うかがったときに、この計画が進んでいくなかで、一方で国営越後丘陵公園の計画が出てきて、そこはかなり切なかったと伺ったことがあるのですが、そこをどう乗り越えたか。

大原

実は越後丘陵公園ができるなんて思っていなかったのです。あれは小林孝平市長の長岡ニュータウン4万人計画で動き出した企画が、実際は貼り付けるのは不可能。たまたま時代が変わり始めたのです。円高不況の中4万人のまちをつくる、その人たちがどこへ住むのか。やはり職場としての工業団地を造らなければならない、流通団地を造らなければならないといういろいろ計画が出る。ところがなかなかそうはいかない。4万人どころか1000人くらいしか人はこない。しょうがないから空いたところは国営公園にするしかない。買収した金をどうするかという、これは政治の話で大変苦しい。それで計画として、そこに北陸筋、最初は能登半島あたりに決まりかけていたものを、政治力で角さんと村山さんとかの力で長岡に引っ張り込んできたという、こういうことがあったのです。

だけど、それを私は知らないわけです。国営公園ができるなんて思わないから、一生懸命、似たような性格の雪国植物園をつくっていたのですが、途中で国営公園ができるというので、私はびっくりして市長室に怒鳴り込んだのです。日浦市長に。そうしたら、いやあれは、一般の人たちの豊かな生活のため余暇の時間を満たすための法律に基づいた公園です。あなたのものはこれからまさに必要な、自然を大切に、生態系を大切にする、そういう個性がある。しかも向こうは国で、こちらは長岡市として見捨てるようなことは絶対しないとおっしゃる。しかし私としてはとにかく向こうができればこちらが成り立たないのではないか。成り立たないということは、市民の税金を無駄に使うことになる。かっかきて市長さんに文句を言ったのでした。

それで市長さんになだめられて、そうですか、じゃあやるしかありませんね、というのでずっと続けてきたという経過があります。

松本

そういう困難を何とか乗り越えて、雪国植物園が開園して、ずいぶん時が経つわけです。もちろん森づくりというのはそれほど一足飛びにはいかないわけで、時間をかけてというところだとは思いますが、この少なくとも現時点で大原さんが思っておられる雪国植物園はどのくらいまでできあがってきたのでしょうか。

大原

かっこよく言うと、7、8割方。もっとかっこよく言うと、永久に終わりはありません。ですが、相手はお金がなんぼでもある国営公園で、それと対抗する魅力が無ければ向こうにお客さんがいくのは当たり前、お客さんがお見えにならなければつぶれるのが当たり前なのです。生き残るためには個性を大事にしなければならない。だからますます、逆に特化してきたのです。雪国の里山の生態系に限る。高山植物もダメ、海辺の植物もダメ、園芸種はどんなに美しくてもダメだ。もっぱら雪国の里山の生態系だけにこだわる。農薬を

使ってはダメだ。トンボがいっぱいいて、蛍がいっぱいいる、鳥がいっぱい鳴いている、そういう場所をつくろう。それならその個性を見に来てくれる。オンリーワンの世界は生きられる。ナンバーワンの世界は資本の戦いです。うちの植物園は資金の戦いではない。貧乏しよたいでボランティアですから。となれば、オンリーワンを狙うしかない。徹底して雪国の里山の生態系を守る。

だから、外来種は、来るのですよね。セイタカアワダチソウなんてのは。なんぼでも、先ほどのウシガエルの騒ぎも外来種でお話がありましたが、あれはタヌキが食べてくれるのです。私は池を造成したとき、ウシガエルがワーっと増えたのです、3年目くらいに。困ったなと思ったら、ちゃんとタヌキが待っていて、あれは夜に移動するのです。それを捕まえて、いまはほどよくバランスがとれている。最初は、トノサマガエルというのは皆食べられてしまう。ウシガエルは小さな蛇まで飲み込みますからね。すごい獰猛です。それをタヌキがと、生態系バランスがとれる。そういう世界なのです、自然の生態系のなかに、食べたり食べられたりする食物連鎖を通したバランスがあるのです。そこによそ者が入っていくと、なかなか面倒。そのよそ者を排除するのが神経をつかうし実際上無理な部分はあるのですが、限りなくそれに近づける努力はやっています。そうでないと、オンリーワンの世界にならない。そのように思っています。

松本

大きなキーワードです。最近の若者が使う言葉で言うと「キャラがたつ」、「とんがっている」というところです。そこが雪国植物園の最大の魅力であるし、あり方だなと思うところです。

今後、永久に終わりが無いというお話もありましたが、今後雪国植物園が目指していくあり方は、繰り返しになるかもしれませんが、どうお考えですか。

大原

そういう条件を守った中で、なおかつ魅力があるかないか。うちにくるお客さんの半分は東京の方、関東からのお客さんです。まだ少ないのです。去年が 17700 人くらい。対前年度比 125 パーセントくらい。うちはまだできていないから宣伝しないとっているのです、造成の方に一生懸命で。だけど、来てくださる方のお気持ちを考えると、そろそろ宣伝しても良いのではないかと考えています。そして宣伝するという事は私は長岡の流動人口を増やす経済問題でもあると思うのです、地域活性化の。その個性のあるものがいっぱい集まったところが魅力的なまちなのです。だから、その一つとして植物園があっても良いと思っているのですが、そのときに、皆さんが本当に行きたい、これが5万人、10 人万と来てくださるためには何が必要なのか。そういう条件を守りながら、なおかつ、わあー凄いという、そういうものが点在していないとダメなのです。いつ来ても、わあー凄いというものが何かある。蛍が 1000 匹飛んでいますよ、ヘイケボタルもゲンジボタルも両方見れます、トンボが 40 種類います。メダカが泳いでいます、カエルだって 10 種類以上います、そういう世界です。それは良いのだけれど、まず、例えばカタクリは 50 万株くらい咲いてくれますね。ですが国営公園が 100 万株あるというから、うちは 50 万株くらい

しかないからダメだな、これは宣伝しないようにしよう。だけどユキワリソウなら向こうは 16 万、うちは 43 万くらいある。ならこれをとことんやったら良いだろう。わあ凄いという、そういう世界をつくる候補はいくつもあるのです。わあ凄い戦略と私は呼んでいるのですが、わあ凄いという世界をいくつかちりばめる。それでなおかつ自然。そういう世界を考えたい。

松本

効果的な宣伝は難しいところがあります。今日入り口に雪国植物園のパンフレットをもってきていただいておりますので、是非お帰りの際にはお持ち帰りいただいて、皆さん方からも是非これを契機に雪国植物園の宣伝を大いにしていただければと思います。

「長岡開府 400 年」を記念した、桜についても是非お話しいただければありがたいです。

大原

牧野様にオオヤマザクラという桜を 30 本寄付していただいたものがいま花をつけるようになりました。植えてから 20 年経たないと大人にならないのです、成人式を迎えられない。野生の桜は日本全体で 9 種類 3 亜種といわれているのです。そのうち新潟県には 5 種類自生しています。雪国植物園ではその 5 種類の桜だけ植えることにしています。ソメイヨシノはうちは植えません。ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの原種をかけあわせて、江戸時代の末期に、池袋のあたり、駒込ですが、染井村という植木職人のまちがありまして、そこの職人が作り出したのがソメイヨシノです。そういったものがおそらく 300 から 400 種類、新しくつくりだされたものがあるのです。園芸品種のサクラというのは、案外簡単に受粉してかわったのが出てくる。そういうものですから、400 種類そういうものがあるのですが、原種は 9 種類プラス 3 亜種。ですから野生では 12 種類しかないのです。それだけを入れるという形で、中心はヤマザクラです。山桜は、吉野山のヤマザクラが有名ですが、新潟県が北限なのです。表日本では宮城県が北限。だから北限の桜なので、ヤマザクラが中心かな、最初はオオヤマザクラが新潟県から北の、北海道では平地に咲く花です。ですが新潟県では標高 500 メートルから 800 メートルくらいの高さなのです。だから 500 メートルから下だから良いかなと思ってこの桜を植えたのです。美しいのです。花は大きいし、ピンクですごくきれい。割合早く咲く。ですけれども、やはり植えてみて花が咲くようになってから気が付いたのは、秋の紅葉がダメなのです。すぐに葉っぱが散るのです。ヤマザクラの紅葉は綺麗なのです。だから秋の風景を考えたときには、オオヤマザクラよりもヤマザクラの方が良いと思ってます。いままで植えた桜がおかげさまで牧野様からいただいたものを含めて 1,300 本あります。それから野生の桜が 1,300 本あるのです。ヤマザクラが 800 本とオクチョウザクラというのがあるのですがこれが 500 本。あわせて 2,600 本ある。400 年祭記念であと 400 本植えれば、3,000 本の野生の桜になります。ですから、これからそれで、1 本 1 万円と考えると 400 万円、だけどいままで植えてあるものも 2,400 本を含めて合計 3,000 本の維持費、管理費を考えると 2000 万円のかねが必要だということで、2000 万円募金活動をはじめました。

いま、1350 万くらい集まっています。これはお一人 1 本で良いのです。野生の桜が 3,000

本あるところはないのですよ。新潟県の有名なところは上越、あれはソメイヨシノ。村松、あれは 3,000 本のソメイヨシノ。大河津分水あれも 3,000 本のソメイヨシノです。個性のある野生の桜だけ 3,000 もあるということは、同じような所はないのです。そういうものを大事にすることによって、次の世代に伝えていくのが我々の役割ではなかろうか。こんなふうに思っています。そういうことで、個性を大事にしながら、なおかつ自然の生態系にぴったりとはまったやり方のなかで、次の世代につなげていくような魅力あるものをつくりたいというのが植物園の考え方です。

松本

先ほどの話で、ボランティアにも種類があるという話も出てきましたが、園長ご自身がお金を出されているというのがすごいと思います。これは実は大正時代の令終会もそうできて、山田又七も田村文四郎も自分で出しているのです。記録でみるとそれぞれ 2,000 円出しています。いまでいうと 1,500 万円くらいです。まさに自腹です。これを出したうえで集めているわけです。自分が出さないと他の人は出してくれないというところがありますよね。

大原

貨幣価値からいうと、例えば大野甚松さんがいまのアオーレのところの公会堂、私が子供のころには公会堂がありまして、大学するときもまだあったのです。あれは 25 万円くらいの寄付金でした。いまの金に換算すると 5、60 億円になるでしょうね。野本互尊翁が出しているのが、20 万円、これもすごい。全国で 5 本の指に入る図書館、これもいまの金でいうと 40 億か何かになるくらいの規模になっている。その換算でいうと、令終会の寄付金は 10 万円ですから、それに土地など現物寄付なるものを加えても 30 億円くらいかな。そういうものを出し続けた長岡の歴史があるのです。

家一軒なら、普通の家なら 500 円でできて、良い家でも 1000 円でできると言われた時代ですから、2,000 円寄付された山田又七さんはたいしたもんです。その山田又七さんはその他にも宝田石油で 1 万 7000 円くらい…

松本

宝田石油としても 1 万円出しています。

大原

だからやはり、心意気みたいなものに私は感激せざるを得ないですよ、すごいと思います。

松本

儲けたお金で私腹を肥やすのではなくて、世のため人のために地域にまわしていくのだ、地域の将来のためにしていくのだという、志、あるいは思いの強さは、いまの時代、これからの時代も受け継いでいく必要があると思います。

という話をしているうちに、お時間に近づいてきております。この 100 年前の、開府 300 年の令終会による悠久山開発、それを受けての現代の雪国植物園、今年は「開府 400 年」

ということで、先ほど牧野様による御講演でも、開府 500 年に向けてというお話もいただいたわけですが、大原園長なりに、未来に向かってという視点でいかがでしょうか。

大原

長岡安平さんは個人的な趣味としては桜の花は好きではなかったようです。「私の主義としては、あまり桜という花は好まんが、昔から武士の心と歌われ、国の花と尊敬され、近時においては桜ゆえに日本を世界に有名たらしめたことを思うと、この花のことをこうするのも無駄ではない」結果として桜の花はすべての公園で大人気。それがまちおこしにつながっている。それで彼も至るところで桜を植えてきた。そういう歴史があるのです。

悠久山公園の歴史は、3代忠辰公のときに桜が相当あって、それからその後また千本桜が植えられて、お話の通りまた令終会ができたときにやった。実はソメイヨシノが誕生したのは江戸末期で、最初のころはヤマザクラなのでしょう。江戸末期に出たソメイヨシノは寿命が 50 から 60 年といわれる。あれは管理が悪いと、「桜を切るバカ」と言われるくらい枯れやすいのです。ところがきちっと管理して枝を整理して葉を塗ってやると、あれは 100 年以上生きる。弘前の桜はリンゴ農家が剪定の技術を、木の育て方を知っているから、それで弘前の桜はずっともっているのです。日本一のソメイヨシノ、しかも大木です。ソメイヨシノは江戸時代とあわせて良さを出しているのですが、横に広がる桜なのです。ヤマザクラは上に伸びる性格がある。皆それぞれ性格があって、その場所にふさわしいものを選び出してきちっと管理すれば、桜は素晴らしい、日本人の心を打つ植物です。

私は、これから 400 本植えるのは全部ヤマザクラにします。ヤマザクラがやはり新潟県が北限であり、自然にふさわしいと思っていますから、いままでいろいろやってきました。園内にはヤマザクラ、カスミザクラとチョウジザクラは前からあるのですが、今後はヤマザクラを補強していきたいと思っています。桜のことを勉強するとそういう結論になります。

松本

ただ単に公園を作る、何をつくるというだけでなく、そこにまちづくりであるとか、まちの将来をどう見て進むかということの大事さは、これは大正時代の開府 300 年、の頃の令終会、そして今の時点の平成令終会、雪国植物園の展開から、我々市民は大いに学ぶところが大きいとあらためて感じた次第です。

これから 3 月になりますが、雪国植物園の今年の開園はいつからですか。

大原

3 月 17 日です。今年は大雪だから——といっても延ばすわけにはいきませんから、雪を消します。消せば花は咲いてくれます。やる気があればたいいのことはできますから心配ないのですが。むしろこれから、悠久山公園をどうすべきか、地域の皆さん一緒に考えてください。すばらしい歴史があるのです。私は東の悠久山、西の植物園という、同じ令終会の名前をつかった、そういうことに関わった山です。東が魅力的であってほしい。一つの欠点だったのは、私有地が入り組んでいて、モーターができたりしたことです。以前

ここに長岡市立科学博物館がありました。その植物の先生がいらしたのですが、こんなことを言っていました。子どもさんで見張りをたてて、母親が植物を盗んでいったと。庭の奴を。そういうことがまだあったということです。うちは植物園ではそういうことがないようにいろいろやっているのですが、それくらい悠久山公園の本来の自然がなくなったので、私はその代わりにやるのです。だからもう一度悠久山公園の原点から見直して、どうすべきなのか、どうするのがベストなのか議論していくべきではないかと思っております。

松本

これは課題として非常に大きいものがあります。それこそ、悠久山公園をよく学んで雪国植物園をつくられた。今度は逆に、悠久山公園の側が、この地域、とりわけ我々が、雪国植物園に学んでこれからの 100 年に向かう悠久山公園にそれぞれいかに関わっていくかという、課された課題は大きいです。本学は足元にいるわけですから、それは何があっても一生懸命やっていくということは覚悟を決めているところです。

いずれにしても 3 月に開園ということでしょうから、そういう意味では、先ほどボランティアにもいくつか種類があるというお話がありましたけれども、さまざまな関わり方もありますし、あとは足をお運びいただいて、それを周りに広げていただくということも、植物園の未来につながっていくというところではないかと思った次第です。是非入り口のパンフレットをお持ち帰りいただきたいと存じます。



第5回悠久山・東山フォーラムアンケート（2018/02/24）

集 計 結 果

2018/02/28 長岡大学地域連携研究センター

1 回答数・回答率について

＜別紙＞のアンケートを、第5回悠久山・東山フォーラム「悠久山の見どころ、撮りどころ—“お山” あんなどこ、こんなどこ—」2月24日（土）13:30～16:00、（於・長岡大学）の参加者に行った。回答率は、回答数82人／参加者122人＝67.2%であった。

2 ■講演「牧野家と悠久山」は楽しかったでしょうか。

牧野忠昌氏の講演が楽しかったか。（1つ○をつける）。図表1の通り、「非常に楽しかった」が63.4%、「まあまあ楽しかった」が35.4%で、「楽しかった」と評価する回答が98.8%と圧倒的割合を占めた。ほとんどの参加者が高く評価した。

図表1 講演は楽しかったか

非常に楽しかった	63.4%	52
まあまあ楽しかった	35.4%	29
あまり楽しくなかった	0	0
楽しくなかった	0	0
その他	1.2%	1
無回答	0	0
有効回収数	100%	82

- ・素晴らしいお人柄が現れていました。長岡を愛されている様子も十分窺え。
- ・楽しかった。勉強になった。
- ・牧野家と悠久山の関係が良く分かった。
- ・悠久山の今まで知らなかった話を聞き、尊い場所を毎年微力ながら清掃に参加させていただいていることに感謝する。
- ・牧野様のお話を身近に感じ、親近感も持ち、歴代藩主の城下町づくりに感銘を深めた。

3 ■対談「令終会と悠久山」は楽しかったでしょうか。

大原久治氏と松本教授の対談は楽しかったか。図表2の通り、「非常に楽しかった」が70.7%、「まあまあ楽しかった」が20.7%で、「楽しかった」と評価する回答が91.5%と圧倒的割合を占めた。ほとんどの参加者が高く評価した。

図表2 対談は楽しかったか

非常に楽しかった	70.7%	58
まあまあ楽しかった	20.7%	17
あまり楽しくなかった	0	0
楽しくなかった	0	0
その他	1.2%	1
無回答	0.1	6
有効回収数	100%	82

- ・未来を夢見ての素晴らしいまちづくりへの情熱が伝わってきて、大変良かった。
- ・植物園の事業コンセプトと苦闘の戦いの話に感動。
- ・令終会の思想、長岡人のプライドですね。とても勉強になった。
- ・大原さんのお話がよかった。とても。また聞きたい。
- ・雪国植物園に山桜、大賛成。
- ・悠久山の在来の植物の話が聞きたい。
- ・学校等で子供たちに伝えて欲しい。

4 「悠久山いいところ撮りまっぷ」の評価はいかがですか。

図表3の通り、「非常に評価できる」が93.9%、で、「ほとんどの参加者が高く評価した。

図表3 悠久山いいところ撮りまっぷの評価は

非常に評価できる	93.9%	77
あまり評価できない	3.7%	3
評価できない	0	0
その他	1.2%	1
無回答	1.2%	1
有効回収数	100%	82

- ・ふだんの散歩コースでなんとなく見ている。写真は良くとれてきれい。
- ・学生の労作は素晴らしかった。一層悠久山の良さがわかった。
- ・がんばれ
- ・悠久山にもっと行きたいと思った。
- ・小動物も撮られたらいいと思った。
- ・石碑編が特に良い。
- ・悠久山がこんなきれいな写真のまっぷになって驚いた。
- ・まっぷに土俵を入れて欲しかった。歴史マップとして、歴史を学ぶ情報を多く欲しい。
- ・上空から見た写真（ドローン撮影）も加えてみたらいいか。

5 このフォーラムの開催について、どの情報からお申込みいただきましたか。

どういった情報を目にして申し込みされたかについては、ダイレクトメールが17.1%、図書館・コミュニティセンターなどのポスター・チラシが23.2%、市政だよりが14.6%、新潟日報の記事が20.7%、その他は22.0%だった。

その他の中には、町内の回覧板、本学職員から、大学のホームページから、知人から、というものが含まれている。

今回、2/1(木)新潟日報の記事を読んで申し込まれた方が多く、それ以降の申し込みが一気に多くなった。いろいろな形で広報をしているが、新聞の影響力が大きいことに改めて驚かされた。今後の広報の課題として認識しておく必要がある。

図表4 このフォーラムの開催はどこで？

ダイレクトメール	17.1%	14
図書館、コミュニティセンターなどのポスター・チラシ	23.2%	19
市政だより	14.6%	12
新潟日報の新聞記事	20.7%	17
その他	22.0%	18
無回答	2.4%	2
有効回収数	100%	82

6 今後のフォーラムについてテーマや感想など。

- ・ 歴史家、作家による講演会
- ・ 長岡市の産業分野の偉人たちを考えるもの。
- ・ 小沢錦十郎の経歴について知りたい。
- ・ 長岡大学と地域と連携した活動について聞きたい。
- ・ 今回のテーマをもっと掘り下げたフォーラムをお願いします。
- ・ 栖吉地区の歴史。大原氏の話。
- ・ 蒼柴神社の歴史、・ 悠久山公園の活性化、令終会の歴史と今後の長岡。
- ・ 植物の詳しい話。東山地域の良さを語ってもらいたい。花や木や鳥の探鳥会など。
- ・ 長岡の建造物、長生橋、長岡城、食、酒について。
- ・ 学生の活動の紹介。

<感想>

- ・ 近年悠久山が置き去りにされているように思え、市に対し、もっとアピールし守っていくべきと考えていました。悠久山の中に位置する長岡大学だからこそ、長岡の大切な遺産でありシンボルでもある悠久山を守る取組、発信を期待します。
- ・ 知の探求にセンスを感じます。脳に刺激を与える新鮮さに感動です。
- ・ 地域の環境の掘り起こしに活躍してください。
- ・ 長岡開府四百年記念に相応しい素晴らしい企画です。
- ・ 地域の課題、活性化について常に取組されていることに敬意、感謝しております。
- ・ 近くに住んでいるのに知らないことが多く楽しかった。
- ・ こういうフォーラムがあることを知らなかった。次回も参加したい。
- ・ 講義室的なところで、テーブルがあると聞きやすくメモも取りやすい。

(文責：高橋治道)

<資料>

第5回 悠久山・東山フォーラムアンケート 2018. 2. 24 (土)

長岡大学 地域連携研究センター

* 本日は、第5回悠久山・東山フォーラムにご参加いただきありがとうございます。
今後のフォーラム開催の参考にさせていただきたく、アンケートにご協力をお願いいたします。

性別	1 男 2 女	年齢	1. 22歳未満	2. 22～30歳
			3. 30歳代	4. 40歳代
			5. 50歳代	6. 60歳代以上

1 講演「牧野家と悠久山」は楽しかったでしょうか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 非常に楽しかった | 2 まあまあ楽しかった | 3 あまり楽しくなかった |
| 4 楽しくなかった | 5 その他 () | |

2 対談「令終会と悠久山」は楽しかったですか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 非常に楽しかった | 2 まあまあ楽しかった | 3 あまり楽しくなかった |
| 4 楽しくなかった | 5 その他 () | |

3 「悠久山いいとこ撮りまっぷ」の評価はいかがですか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1 非常に評価できる | 2 あまり評価できない | 3 評価できない |
| 4 その他 () | | |

4 このフォーラムの開催については、どの情報からお申し込みいただきましたか。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1 ダイレクトメール | 2 図書館、コミュニティセンターなどのポスター・チラシ |
| 3 市政だより | 4 新潟日報等新聞の記事 |
| 5 その他 () | |

5 今後のフォーラムについて、こんなテーマで、こんなことが聞きたい、こういう人の話が聞きたいなど、具体的にご記入ください。今後の活動の参考にさせていただきます。

--

*ありがとうございました。会場出口で係員にお渡ししてください。

文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25～29年度)／
「地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+)」(平成28～31年度)
＝長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成29年度 長岡大学地域連携ブックレット No.1

第5回悠久山・東山フォーラム

【発行日】平成30年3月29日

【発行】長岡大学地(知)の拠点整備事業推進本部
長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

T E L 0258-39-1600(代)

F A X 0258-39-9566

E-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp